

年頭に想うこと

あけましておめでとうございます。

本年が皆様お一人おひとりにとって、輝かしい良い年となりますよう、心より祈念申し上げます。

一昨年から続いて、昨年も、新型コロナウイルスの感染拡大が私たちの生活に大きな影響を与えましたが、政府の新型コロナウイルス対策は、感染拡大防止と社会経済活動の両立を図る方向に移行してきています。引き続き、感染拡大防止に全力を挙げながら、「With コロナ」における社会経済活動の活性化に向けて、それぞれの立場で工夫をしながら、この難局を乗り切りたいと思います。

さて、当基金では、「With コロナ」対策というわけではありませんが、事務のマニュアル作りに取り組んでいます。

マニュアル作りを進めることによって、誰もが迷わずに、一定レベルで業務を行えるようになる、業務を標準化することで、事務の生産性向上に結びつく、仕事が属人化することを回避できる、等々を狙いにしたのですが、「With コロナ」においても有用だと考えています。



しかし、マニュアル作りは、各担当者に通常の業務の傍ら行ってもらっているのもので、その取組を励ます意味合いを込めて、本年度初めて、マニュアルコンテストを行いました。

部課単位で出品マニュアルを決めて、担当者がプレゼンをするという方法は、副次的に、部課の一体感が醸成される、プレゼン担当者が達成感を味わえる、といった想定外の効果もあったようで、主催者側としても手応えを感じることができました。

日々の業務は、つついマンネリ化しがちなものですが、背伸びをすれば手が届くくらいの目標を自らに課し、それを実現することで達成感を味わい、楽しく仕事をするにつなげるならば、こんなに望ましいことはありません。

今年の干支は、癸卯^{えと}。いろいろな解説がある中で、「寒気が緩み、萌芽を促す年」という解説が目にとまりました。コロナ以降停滞し続けてきた世の中に、そろそろ希望が芽吹く春がやってくる年であると理解し、希望と勇気を持って一年を進んでいきたいと思っています。

独立行政法人
農林漁業信用基金 理事長 今井 敏